

記者懇談会の記録

日 時	令和 6 年 6 月 27 日（木）16：00～16：45
場 所	岩見沢市役所 3 階 会議室 3-5
記者数	8 人

1 洪水ハザードマップの改訂について

（市長）

当市の洪水ハザードマップですが、国と北海道からのデータ提供を基に「大河川洪水ハザードマップ」として、平成 21 年 6 月に石狩川などの 5 河川を対象としたハザードマップを大きな図面形式で作成し、平成 30 年 3 月にそれまで 100 年から 150 年に一度の雨量、計画降雨だった浸水想定区域を、1,000 年に一度の雨量、想定最大規模降雨を基に浸水想定区域とした A3 判の図面形式で作成、令和 3 年 10 月に 5 河川から旧美唄川などを追加した 10 河川を対象とした A4 判の冊子形式で作成しました。

また、中小河川については、南利根別川などの中小河川、8 河川を対象に、市が独自に浸水想定区域をシミュレーションした「中小河川洪水ハザードマップ」を平成 25 年 3 月に作成し、令和 3 年 10 月に北海道が公表したハザードマップを基に、浸水想定区域を 50 年に一度の雨量から 1,000 年に一度の雨量に見直すとともに、対象河川を 8 河川から 31 河川にしたマップを作成していたところです。

今回、これらのハザードマップのリニューアルを行うこととしましたが、その改正点は、1 点目に、中小河川で、北海道より対象河川が 3 河川追加されていますので、その 3 河川の追加、2 点目に、中小河川でこれまで河川毎に作成していたものを全ての河川を重ねた図面の作成が可能となりましたので、大河川と同じく河川を重ねた図面で作成しました。3 点目に、平成 24 年以降の道路冠水の実績を基に、内水ハザードマップを新たに作成しました。4 点目に、防災の情報ページを、地震の備えなどを追加し、充実しました。5 点目に、お住まいの地域から検索、索引できるよう、目次に地域別五十音索引を新たに追加しました。6 点目に、これまで大河川と中小河川、別々で作成していた冊子を「防災マップ」として一冊にまとめ、取り扱いやすいようにしました。

リニューアルした「防災マップ」は、総合的な防災啓発冊子として、市のホームページでの掲載および、市役所、支所、サービスセンターに配架するとともに、町会・自治会長並びに要配慮者利用施設に送付することとしています。

<質疑応答>

（北海道新聞）

今回の防災マップを、今後、市民の周知というところでいうと、例えば市の LINE で何か通知するなど、どのように市民への浸透を図られるご予定か、お伺いしてもよろしいでしょうか。

(市長)

まず今回の防災マップですが、市のホームページで公表するというのが一点、それから必要な方には、市役所と支所それからサービスセンターに配架をして、お持ちいただくことを考えています。それから町会・自治会の防災活動として、防災マップの配布なども行っていただきたいと考えておまして、申し出を受けて、申し出のあった町会・自治会には必要部数をお渡ししたいと思っています。

それから LINE など SNS を使った周知につきましては、なかなか容量、情報量もかなり多いので、LINE 等についてはその特性も踏まえて、災害が迫ってきている危険性ですとか、そういった方面での活用が主になってくるかなとは思っています。

町会長さんなどでも LINE の通知システムを活用してるところもありますので、雨の状況などについては、常時市民の方にも通知しますし、こういう危険性が迫っていますということについては、LINE などを使って町会長さんへの周知も考えていきたいと思っています。

(北海道新聞)

災害時に住民の方がどれだけ迅速に、かつその高齢の方が多い中で、どこにどういうふうに避難するかというのが大事になってくるかと思いますが、特に短時間で、という場合に、このマップができて、その周知も踏まえて、具体的に防災訓練であるとか、何か実体験を伴うような企画も予定されていますでしょうか。

(市長)

市民参加の防災訓練というのを実施していますので、その際、避難所の設営も含めて、設定条件にもよりますが、水害の危険性が迫っているというようなことを想定しながら訓練をしていきたいと思っています。水害の場合は地震と違って、ある程度タイムラインといいますか、河川の状況が、水位が上がってきたときにどういうことが起きるかということも含めて、この防災マップを活用していきたいと思います。

(プレス空知)

ホームページと、特に配布になる資料ですけれども、これと同じような状態の想定でしょうか。ホームページをまだ見ていないのですが、この想定浸水深の 4 段階の色ですが、これ、色があまり得意じゃない、要は、私は赤と緑が苦手なんですけれども、そういう人にとっては、特に 3～5、0.5～3 のあたりのボーダーが非常にわかりにくいんです。

もう少し何かしらの形で、例えばホームページで見たときにカーソルを持っていったら、このこの色だよとか、その色は 5m 以上だよとか、何かそういうのが出るような工夫があると、ありがたいのですが。

(市長)

そこまでのシステムにはなってないですね。ただ、より分かりやすいことについては、特にホームページ上でも公開いたしますので、それは研究してまいりたいと思います。

(プレス空知)

というのが、岩見沢に限らず他のところで見ても同じようなものがあるものですから、改めてまたお願いしたいなというところです。

(市長)

地区別で図面が分かるように住所からの逆引きといいますか、そんなことについては留意したところなんですけども、もう少し分かりやすくということは、やはりこれからも改めていろいろ検討、研究していきたいと思っています。

2 田んぼダムを取り組みについて

(市長)

田んぼダムを取り組みについてです。近年、気候変動による洪水リスクの対応として、流域治水に関する事例がよく言われるようになりました。

これに関連して、岩見沢市では、広域協定に加盟する農業者の皆さんが「田んぼダム」の取り組みを通じて、市街地や農村地域を含んだ流域の治水に大変ご貢献いただいています。

「田んぼダム」ですが、雨水を田んぼに一時的に貯めて、時間をかけて少しずつ流すことで、排水路や河川の水位が急激に上昇するリスクを軽減する取り組みです。水田の排水口にある水位調整用の板を、小さな穴を空けた板や、V 字形に切り込みを入れた板に交換するだけで、普段の農作業を行いながら取り組むことが出来るメリットがあります。大きな工事をしなくても手軽に始められるという利点もあります。実施する規模が大きくなれば、ダムに匹敵するような防災効果を発揮するとも言われています。

市内で取り組みを始めたのは平成 19 年頃からと聞いていますが、その頃から岩見沢・栗沢の一部地域を皮切りに、現在、約 700ha の規模に及んでいます。

地域の仲間との共感や、市街地にお住まいの方々への思いやりを元に「田んぼダム」導入を検討する地域が増えつつあります。

岩見沢市としましては、今後とも関係者と連携しつつ、多面的機能支払交付金や、基盤整備事業、これは、国営緊急農地再編整備事業などで排水口の整備を行っていますので、これらの事業を通じて、取り組みの普及と促進をサポートしてまいりたいと考えています。

<質疑応答>

(プレス空知)

平成 19 年から始まったということでしたが、資料には御茶の水と由良が平成 19 年からとありますが、そのスタートしたときの面積がどのくらいだったか押さえていますか。

もう一つ、現在 3 地区で約 700 ヘクタールということで 3 地区、お茶の水と由良がそのまま継続していて、市内の南ということだと思うのですが、大体の戸数、その田んぼの所有している戸数など分かりますか。

(農政部長)

加盟する団体としては 31 団体が広域協定ということで組織しています。ほぼ市内全域の農家さんが加盟されている。ほんの一部加盟されていない方がいるということになります。御茶の水と由良の当初の面積は今押さえていませんので、後ほど確認させてください。

【平成 19 年度に御茶の水地区 100ha、由良地区 250ha で実施。記者懇談会終了後確認し、出席記者にお知らせしました】

(プレス空知)

この田んぼダムというのは、現在作付けしている田んぼということだけでしょうか。いわゆる耕作放棄地になっているような状態の田んぼもこの田んぼダムの対象というか、活用している状態なのでしょうか。

(市長)

耕作放棄地は基本的に岩見沢市にはないので、水田を作っていないければ小麦を植えたり大豆を植えたり、輪作体系でやっていますので、水田を使っているときに、その排水溝の調整板をつけてということになります。

(プレス空知)

休耕地、休ませている田んぼとかありますよね。

(農政部長)

基本的には輪作ですから、田んぼを作っていないときは畑として活用されています。畑では水は貯められませんから、水を張っているところでの調整ということになります。

(プレス空知)

いわゆる「田んぼ」として使っているところと。その輪作で田んぼにしてない年は、この例えば水位調整板というのは目一杯上げてそこに水が入らないようになっているということですか。

(市長)

畑として使うときには、作物が駄目になってしまうので、そこは開けて、畑として使うということになります。

(北海道新聞)

先ほど増えているというようなお話がありましたけれども、増えている背景というか、市として働きかけを行っているとか、何かその増えている背景というのはどうでしょうか

(市長)

やはり農家の方々が先駆的に取り組んで、田んぼダムで使っても収量等には影響が見られないとか、そういったことの知見もしっかり確認できていますし、またその地域に対する貢献と言うのでしょうか。そういう農家の方々のその熱い思いもやはり大きく働いていると思います。また、田んぼダムということで一緒に連携してやるようなことは、随時積極的に市役所の方からもご相

談していますので、そういった理解も広がってきているんだというふうに思います。

3 いわみざわ彩花まつりの開催について

(市長)

今年の彩花まつりですが、花を愉しむことをメインとしたファーストステージと、踊りと花火をメインとしたセカンドステージの二部構成で、7月5日の金曜日から、あやめ公園、いわみざわ公園、駅東市民広場などを会場として開催されます。

まず、あやめ公園では、168種12,000株のあやめや花菖蒲を鑑賞していただくこととしており、いわみざわ公園バラ園においては630種8,800株のバラを鑑賞していただくこととしています。

現在のところ、あやめのピークはやや過ぎていますが、バラはまもなく満開を迎えますので、花菖蒲と合わせると、ちょうど彩花まつりの期間に見頃を迎えると考えています。

その主な内容についてですが、ファーストステージでは、7月5日の金曜日から12日の金曜日、一週間ですが、JR岩見沢駅前でメタセコイヤのライトアップを行うほか、市内の美しい花や魅力ある景色などの写真を募集する、フォトコンテストを実施します。こちらは、7月6日土曜日に市役所で開催するフォトセミナーの受講後、それぞれ市内各所に移動していただいて、撮影していただくこととしています。

あやめ公園では、毎年恒例となっております、あやめ株とあやめ団子の販売を、7月5日から12日までの期間限定になりますが、行うこととしています。

また、いわみざわ公園では、6日の土曜日、色彩館において箏曲演奏と野点が開催されるほか、6日と7日には、旧緑のセンターにおいて、盆栽展が開催されます。

セカンドステージでは、駅東市民広場公園を会場として、観光踊りとお祭り広場が5年ぶりに開催されます。7月20日には、地元農産物の販売や子ども縁日、キッチンカーマルシェのほか、ステージイベントが実施されるとともに、会場内に櫓を設置しまして、子ども盆踊りと観光踊りが行なわれます。観光踊りは、これまでの団体参加による市内のパレード方式から、個人の自由参加となっているところです。なお、踊りを先導する「おどリーダー」を募集中とのことです。

また、21日には北海道グリーンランド遊園地との共催事業となりますが、午後8時から遊園地を会場に、5,500発を打ち上げる花火大会が開催されます。当日の16時以降は、高校生以上1,000円、3歳から中学生まで500円の特別料金で入園できることとなります。

期間中、多くの方々にご来場いただき、岩見沢の初夏のお祭りを楽しんでいただきたいと考えています。

<質疑応答>

特になし

4 北海道そらちグルメフォンド 2024 の開催について

(市長)

空知の雄大なロケーションと美味しいグルメを楽しむ、北海道最大級のサイクルイベントであります本イベント、北海道そらちグルメフォンド 2024 ですが、今年は第 11 回目の開催です。

開催日は、9 月 1 日の日曜日、コースはロングとミドルの 2 種類のコース、ミドルコースには、未舗装路を走るグラベルコースも取り入れた 3 コースを設定しておりまして、いずれもいわみざわ公園野外音楽堂「キタオン」を発着会場として、今年は、南空知の南回りで、岩見沢市、栗山町、長沼町、南幌町、由仁町、夕張市の 6 市町を巡っていただきます。今年は万字峠、丁未峠とも申しますが、そこを越えるコースとなっておりますので、特に、エキスパートの方にとっては、満足度の高いイベントとなっています。

募集定員は、昨年と同様の 800 名としまして、今月 15 日から既にエントリーの受付が始まっております、7 月 22 日までの先着順となっておりますので、多くの方のご参加をお待ちしています。

また、コース上のエイド、補給所や、ゴール後に提供するグルメについては、各市町の特産品などをご用意する予定ですので、こちらもお楽しみいただけるかと思います。

さらに、ゴール後のステージイベントでは、俳優・声優として活躍されております、大会ゲストの 猪野 学さんのトークショーや、昨年に引き続き、北海道日高町出身であるシンガーソングライターの こばしひな さんのミニライブなどを予定しています。

<質疑応答>

特になし

5 その他記者から質問

<質疑応答>

(北海道新聞)

市長の任期最後の議会の一般質問が終了しましたがけれども、市長ご自身としてどのように総括をされたかということを少し伺いしたいと思います。

(市長)

いろいろな観点でご質問いただきましたので、本当に議員の皆さまには、これまでも特にこの 3 期目コロナ禍ということもありまして、いろいろなことを、ご協力もいただきながら市政運営に努めてきたということでございまして、最終日には私もご挨拶をさせていただく予定ですが、その中で感謝も含めてお伝えしたいなというふうには思っています。

(北海道新聞)

新病院、規模見直しの進捗については、議会では今回出ていなかったようですが、どのようななっていますでしょうか。

(市長)

今、規模の見直し等々、新しい病院の建設に向けて、今いろいろ作業中になっています。まとまり次第速やかに公表するなどしていきたいなというふうには思っています。

(北海道新聞)

時期的にめどなどはいかがですか。

(市長)

7月、少なくとも7月の末ぐらいになりそうですかね。末くらいかなとは思っています。

(北海道新聞)

昨日、市長選で3人目が出馬の意向を示しているということで、受け止めと、それを受けてどのような選挙戦の展開、市長の陣営としては行っていくつもりかというところを伺えますか。

(市長)

受け止めと言われましても、あまり私も情報を持ち合わせておりませんので、そこは私としては、後援会の皆さまと、いろいろと連携を図りながら、取り組みを進めていく、着実に取り組みを進めていきたいと思っていますし、それに尽きるんだろうなというふうに思っています。

(北海道新聞)

先ほどの質問とも重なるのですが、特に病院の関係、今回最後の議会だったということで、一定程度施策に関しては仕上りの時期なのかと考えているのですが、その点でいいますと、今回、ご自身がこの任期中に叶えたかった、取り組みたかった部分というのは一定程度めどがついたといえますか、どれぐらいの評価をされていらっしゃるのでしょうか。

(市長)

公約という意味でいえば、一つを除いてほぼ着手もしくは達成という、そういう状況ですので幸いなことに皆さまのご協力をいただきながら取り組むことができたかなというふうに思っています。

ただ、現在進行形で大きな課題を抱えておりますのも事実ですので、その課題解決に向けてもまた現段階でも精一杯頑張らせていただいているところです。

(北海道新聞)

ちなみに、その課題の病院のところですけども、7月末ぐらいにはというお話でしたが、一定程度当初おっしゃっていた、例えば60億円分の圧縮であるとか、そのところは叶えられそうな計画内容になってきていますか。

(市長)

今の建築費自体も、未だに落ち着くことなく増高していますので、その都度その都度いろいろな必要な検討を加えながらやっています。

できるだけ事業費の見直し、規模の見直し内容ですね、それに応じた事業費についてもしっかり検討しているというようなところになろうかと思います。

(HBC)

先日、東野選手がいらっしゃって表敬訪問した際に、ちらっとパブリックビューイングか何か、応援会みたいなものを、という話をされたと思うのですが、何か具体的なお考えは。

(市長)

まだ具体的にはなっていませんが、ぜひ市民の皆さんで応援していただけるような、そういう機会、パブリックビューイング、それを実施したいなということで教育委員会ともいろいろ相談をしながら進めていきたいと思っています。

(HBC)

何かをやる方向で。

(市長)

そうですね。やりたいとは思っていますが、ただ時間がまだ、かなり時差の関係があったりするので、そういった点も確認しながらになるかと思いますが。

(北海道新聞)

クーリングシェルターを導入、開設すると思うのですが、改めて市民の方にどういうふうを活用してもらいたいかというところをお聞かせください。

(市長)

やはり今年も夏は暑くなるという予報が出ていますので、できるだけ速やかに周知も含めて、もっともっと増やしていきたいとは思っていますが、当面は今 6 カ所ですか、民間の施設などもお借りしながらということで取り組んでいます、状況に応じて柔軟に対応したいと思います。

(北海道新聞)

場合によっては増えていく予定がこの夏にも。

(市長)

そうですね。それ以外にも例えば民間の店舗でも、例えば夜の 9 時まで営業なさっているところというのは、あえてクーリングシェルターにしなくても、そこでお過ごしになる方もいらっしゃるかなと思いますが。もう週末から 30 度行きますよね。

クーリングシェルターについては、市の本庁舎、北村・栗沢支所、生涯学習センターいわなび、それから幌向のサービスセンターと、それから幌向については JA いわみざわの幌向支所にもお願いをして 6 ヶ所ですね。

それからクーリングシェルターと位置づけてはいませんが、元々開館時間中は冷房設備稼働している施設として、コミュニティプラザは午後 9 時まで、それから栗沢市民センターも

午後 9 時まで、それからであえーる岩見沢については午後 6 時までですが、まなみーる市民会館・文化センターについては午後 10 時まで、生涯学習センターのいわなびについては午後 9 時半まで、図書館については昨年もご利用いただきましたが、平日は午後 7 時まで、土日は午後 5 時半まで、そういったところもご利用いただけるよう、広報で周知することになっています。

（北海道新聞）

ちなみにお一人暮らしの方とかで、家から出られなくなってしまうとか、そういった安否確認も例えば合わせて力を入れるとか、何かご検討されていることはございますか。

（市長）

体調等にご不安のある方については救急搬送も増えてくるかとは思いますが、そういった点については無理なく、周知していこうとは思いますが。今年、プレミアム付建設券がやはり応募も多かったのですが、エアコンの設置というのがかなり増えていまして、抽選という結果にはなっていますが、そういったものをご活用いただいて、夏の暑さ対策に、ご利用いただければと思っています。

（注）この記録は、重複した言葉遣いや明らかな言い直しがあつたものなどを整理した上で作成しています。（作成：総務部秘書課広報係）